

第 26 号

1999年 3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



津島遺跡（総合グラウンド）を北東から臨む

## 津島遺跡（総合グラウンド）の確認調査

当センターでは、昨年度から史跡津島遺跡周辺においてその範囲・性格を把握するための確認調査を実施しています。今年度の津島遺跡確認調査事業は、発掘調査を4月から6月にかけて補助競技場と軟式野球場で、12月から平成11年3月には、サッカー場周辺とプール周辺で実施しました。また昨年度調査分と今年度4月～6月調査分の成果を報告書にまとめました。

まず、4月から6月の発掘調査では、軟式野球場には1ヶ所、補助競技場には3ヶ所の調査区を設けました。弥生時代前期では、軟式野球場の調査区で微高地の北端を検出し、土壌2基を確認しました。また補助競技場東側の調査区では南北方向に延びる水田の畦が見つかりました。弥生時代中期には、この部分では遺構が確認されませんでした。弥生時代後期の遺構は少



作業風景（補助競技場調査区）



弥生時代前期の土壌（軟式野球場調査区）



弥生時代前期の畦（補助競技場東側調査区）



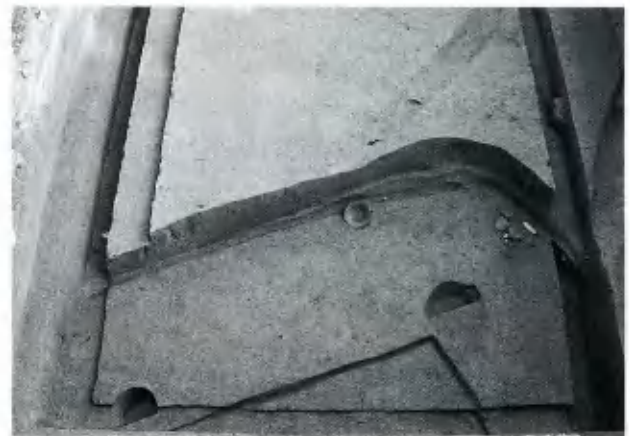
弥生時代中期の溝・土壌（サッカー南側調査区）

なく、補助競技場東側の調査区に溝2本が見られただけです。古墳時代初頭から中期にかけても遺構が見られませんでした。古墳時代後期になると、補助競技場南の調査区で水田とそれに伴う溝が存在します。古代から近世にかけては、軟式野球場と補助競技場東の調査区で東西方向の溝が見られました。これらはもともと古代に掘削された条里溝と思われますが、中世以降も踏襲して使用されているようです。

12月から平成11年3月の発掘調査では、サッカー場周辺に10ヶ所、プール・児童館周辺に5ヶ所の調査区を設定しました。

サッカー場南の調査区では弥生時代中期の土壌や溝が確認され、中期の微高地であることが判りました。またサッカー場周辺の調査区では弥生時代前期の水田も確認されています。

一方児童館周辺の調査区では弥生時代中期から後期、古墳時代初頭の住居跡や土壌が重なり



古墳時代初頭の住居跡（児童館周辺調査区）

あって存在し、弥生時代中期以降古墳時代までは微高地であったことが判りました。またこの部分の調査区では、弥生時代中期の分銅形土製品が出土しています。プール周辺では、遺物は少ないものの弥生時代前期の水田が存在し、畦が検出されました。

（氏平昭則）

## くたはら 久田原遺跡の発掘調査

奥津町久田下原にある久田原遺跡は、苫田ダムの建設に先立ち、平成8年から発掘調査を行っています。これまでに、奥津町内で初めて確認された古墳群や公的性格を帯びた奈良時代の建物群、久田庄との関連が想定される鎌倉～室町時代の集落跡など、数多くの貴重な成果があがっています。今回は、その下層から発見された、弥生時代の集落跡について紹介します。

古墳時代～中世の遺構の下には厚さ1mもの砂層が堆積していました。その中からは弥生時代末の土器が見つかっていて、この時期に大規模な洪水に見舞われたものと思われる。この砂を取り除くと、弥生時代後期の水田の跡が見つかりました。畦などは確認できませんでしたが、水路と見られる幅3mほどの溝が見つっています。

この水田の下を掘り下げていくと、今度は弥生時代中期前葉～中葉の住居跡が多数確認されました。3ヶ所で見つかった円形の竪穴住居は、



弥生時代中期の竪穴住居

それぞれ3～4回にわたって繰り返し建て替えが行われており、径4mで2本柱の住居から径8mで4本柱の住居へと変遷していく様子がうかがわれます。また、長さ3mほどの長方形をした竪穴住居が4軒見つっています。床の中央に炉はあるものの柱穴は見つからないことから、倉庫や作業場として利用されたものかも知れません。このほか、平地式の建物が4棟見つっています。長さ6～7m、幅2.5～3mほどの規模で、中央に炉跡のあるものがあります。このほか舟底形をした土壇や墓の可能性のある楕円形の土壇などが見つっています。

こうした遺構からは、壺・甕・高杯といった弥生土器や石鏃・石錐・石剣・石斧・石包丁などの石器が出土しました。このうち磨製石剣(石矛)は、この地域では類例の少ないもので、あるいは山陰地方からもたらされたものかも知れません。また、石器の中には河原石を打ち欠いて作ったものなどあって、サヌカイトのような好適な石材の入手が難しい山間部の生活を彷彿とさせるものがあります。このほか、土器片を再利用した紡錘車や用途不明の鉄器も出土しています。この鉄器は県下でも古い段階のもので、こうした山間部でもいち早く鉄器が入手され、使用されていたことを物語っています。

このように久田原遺跡は、これまで県北部で発掘された最も古い弥生集落であり、この地域における当時の暮らしぶりを知るうえで貴重な資料になるものと思われます。(亀山行雄)



久田原遺跡の弥生集落

## センターの年間事業(平成10年度)

### 調査第一課

1998年度、調査第一課は課長1名、第一係8名、第二係11名の計20名で埋蔵文化財の普及啓発、報告書の整理・刊行、発掘調査などの事業に対応しました。

普及啓発事業は、8月1日に市町村教育委員会の協力を得て、第11回目の「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」を岡山県生涯学習センター大研修室にて行いました。また、8月から真備町、瀬戸町、矢掛町の埋蔵文化財専門職員の受け入れを行い、発掘調査現場で3ヶ月間の研修を実施しました。さらに、県文化課主催の「おかやま再発見事業」では、県内中・高校生による当センターの施設見学、拓本、トレース、文様つけ等の実習、上東遺跡の発掘、土器洗い等の体験を通して、埋蔵文化財に対する理解と保護思想の普及に努めてまいりました。

9月3日～4日には全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会の中国・四国・九州ブロック会議が岡山でもたれ、7県3市の参加がありました。各センターにおける出土品の取り扱い、コンピュータ利用等々の実態について報告、協議が行われました。

発掘調査事業では8頁一覧表の1～13遺跡を第一係が対応しました。第60回国民体育大会の主会場に関連する津島遺跡の第一次確認調査と報告書刊行、第二次確認調査(1・2)、次年度にかかる国、県道の確認調査と報告書刊行(3・6・7・10)・発掘調査(5)、県営圃場整備事業の確認調査と報告書刊行(8)、市町村指導の確認調査(4)と発掘調査(9・12)、道路公団の災害復旧に伴う発掘調査(11)、その他(3)を含め3,148㎡の調査を実施しました。

報告書の刊行は、第一係が主要地方道箕島高松線改良(津寺三本木・一軒屋遺跡)、雇用促進住宅岡山宿舍建設(原尾島遺跡)、県営圃場整備(阿知境遺跡ほか)、第二係が山陽自動車道建設(加茂政所遺跡)を行いました。

報告書の整理は、第二係が山陽自動車道建設(高塚遺跡)を担当しました。山陽自動車道関係では第18分冊目にあたり、最終の報告書整理の年になりました。平成11年度の刊行になります。

分布調査関連では、本年度から5ヶ年計画で県内遺跡詳細分布調査事業が立ち上がりました。一年次は真庭郡・久米郡・御津郡・赤磐郡・津山市の1市16町5村を対象とし、10月から関係市町村ならびに県内研究者の皆さんの協力を頂き現地踏査を実施いたしました。

### 〈北山野神古墳〉

本古墳は英田郡美作町北山字野神に所在する円墳であり、海拔約130mの丘陵頂に単独で立地しています。墳丘径は9.9～10.5mをはかり、幅1.1～2.5m、深さ約1.0mの円形の周溝が巡っています。墳丘中央には上下の関係で2基の主体部が東西方向に埋葬されていました。上層の主体部からは須恵器の壺・高杯・杯身等、下層の主体部では全長110cm、重さ1.473kgをはかる大



発掘作業風景

刀が一振と平根の鉄鏃5本が土壌の中央から出土しています。周溝内からは鉄滓、炉壁等が12点出土しています。また、少し広がりをもつ南側周溝内では、底面と少し上位から須恵器が5点出土しています。三方透しで短脚の有蓋高杯1点、高杯蓋4点が丁寧に置かれていました。周溝内での祭祀がおこなわれた可能性が考えられます。須恵器などから5世紀末から6世紀初頭頃に築造された墓であることが判明しました。

(高畑知功)

## 調査第二課

平成10年度、調査第二課の行った発掘調査、報告書の作成事業は、以下のとおりです。

第一係は、美作岡山道路建設に伴う事業で4月から8月末までは、熊山町可真下・稗田地区に存在した「前内池墳墓群・前内池古墳群」の調査を行いました。さらに9月からは吉井町光木地区の「来光寺跡、立道A・B遺跡」、2月からは吉井町の調査と並行して熊山町岡・佐古に所在する「大畑遺跡」の調査を行いました。

「前内池墳墓群・古墳群」では、今年度行ったD区において木棺墓・土壙墓120基、土器棺墓60基など多数を検出し、この地が弥生時代後期の集団墓地であったことが明らかとなりました。とくに、乳児の墓と考えられる土器棺墓の数、密集度は県内でも最大級で、当時の墓にかかわる習俗を考える上で貴重な資料といえます。また、墓地を区画したと考えられる石列も一部検出されました。このほかにE区では、弥生時代中期の竪穴住居1軒、ほとんど削平された古墳2基の調査を行いました。この遺跡については、8月8日に現地説明会を行いました。



現地説明会風景

「来光寺跡」では、江戸時代後期から現代まで祀られていた釈迦堂の下層などから2基の基壇と石組み柵・通路状遺構などが、中世の瓦溜まりなどとともに出検され、この地に中世の寺院が建立されていたことが明らかになりました。また、「立道A遺跡」においては、平安時代前期頃の鍛冶遺構、溝や柱穴が、「立道B遺跡」では、中・近世の掘立柱建物や柱穴列・土壙のほかに、中世の鍛冶炉と考えられる遺構などが検出されまし

た。なお、「立道古墳」については調査の結果近世の祠状の遺構で、古墳ではないことが明らかとなりました。

「大畑遺跡」では、弥生時代の竪穴住居や貯蔵穴とみられる袋状土壙が十数基ほど確認されています。

第二係は、県道箕島高松線建設に伴う「上東遺跡」の調査を4月から3月まで行いました。今年度は、山陽新幹線の南側部分を幅10m、東西約1kmにわたり発掘しました。ここはかつて山陽新幹線、都市計画道において2次にわたり調査が行われ、東西鬼川市の微高地上には、弥生時代後期を中心とする各時代の遺構が広がっていることが判ってきています。今回、東鬼川市調査区からは、弥生時代後期の竪穴住居5軒、土壙200基以上、柱穴300本、土器棺墓10基や溝、古墳時代では竪穴住居5軒、柱穴内に礎石を持つ1×2間の掘立柱建物1棟など多数の遺構がみつかっています。また、土器棺墓内の土を水洗し、乳児の歯が何点かを検出しました。

出土遺物は、土器溜まり、溝、土壙内から500箱近くが出土しています。なかでも、分銅形土製品で眉や鼻などを立体的に表現したものや骨製管玉などが注目されます。

また、西鬼川市地区からは、南北に走る溝4条、田所地区からは、上東遺跡では初めての古墳時代と思われる水田が検出されました。下田所・才の元・五反田の調査区では、下田所で1ヶ所、才の元で2ヶ所の微高地の端部を確認しました。いずれも遺構の密度は高くなかったのですが、井戸、土壙、溝、中世以降の土壙、溝などを検出しました。

ふるさと農道（勝央町）に伴う11ヶ所の確認調査を実施し、そのうち遺跡の確認された弥生時代の集落跡である、「田井たれおず遺跡」の全面調査を実施しました。さらに、国道429号拡幅で残っていた「三須・畠田遺跡」の最後の調査も行ってきました。ここからは弥生時代後期の竪穴住居4軒、古墳時代の竈付き竪穴住居4軒、土壙などを検出しました。

報告書作成事業は、昨年度行った県道箕島高松線の上東遺跡の整理を行いました。（伊藤 晃）

### 調査第三課

本年度の事業

#### 第一係

- ・ 苫田ダム (発掘調査) 通年
- ・ 岡山家庭裁判所長官宿舎  
(発掘調査) 7月～9月  
(報告書作成) 10月
- ・ 京橋共同溝 (発掘調査) 11月～3月

#### 第二係

- ・ 苫田ダム (発掘調査) 通年

#### 第三係

- ・ 旭川放水路(百間川)(発掘調査) 通年
- ・ 万成国富線 (発掘調査) 4月～7月  
(報告書作成) 8月～3月
- ・ 矢掛寄鳥線 (発掘調査) 11月～1月  
(報告書作成) 1月～3月
- ・ 国道179号道の駅、備前西大寺線、国道179号バイパス  
(報告書作成) 通年
- ・ 国立岡山病院 (報告書作成) 4月～9月
- ・ 立田排水機場 (報告書作成) 8月～10月

#### 発掘調査概要

苫田ダムの調査は、昨年度から引き続いて奥津町の比丘尼ヶ城と久田原遺跡を実施しました。

比丘尼ヶ城は尾根の一部に郭と思われる平坦部を確認しましたが、とくに柱穴等の遺構は検出されませんでした。しかし、丘陵の斜面部から奈良時代と思われる焼成炉(通称八目罎)が見つかっています。また、久田原遺跡では中世と奈良時代の建物群が昨年度調査区に続いて認められたほか、奈良時代では例の少ない陶馬や骨蔵器が出土しています。さらに、古墳面の下層では弥生時代中期前半と中葉の住居跡の二者が認められ、その下層では縄文時代晩期の住居(覆土から管玉が出土)の存在が明らかになるなどの成果が得られました。(本紙別項参照)

旭川放水路の調査は、岡山市米田の百間川米田遺跡と同原尾島遺跡を実施しました。

百間川米田遺跡は、昨年度から引き続く中世の橋脚や古代の石堤、奈良時代の護岸施設などの調査で、それぞれの下部遺構の状況や存続時期をある程度明らかにすることができました。

また、遺物では石堤の被覆土から出土していた奈良時代の土師器の杯身の底に、「市」の墨書が見つかり、近くに公営の「市場」があった可能性もあります。

百間川原尾島遺跡は、原尾島橋の下流の左岸側を調査し、弥生時代後期から中世の複合集落と弥生時代後期の水路・水田の一部が明らかになりました。検出遺構のなかでは、とくに直径9mを越える大型竪穴住居3～4軒の存在が特筆されます。また、出土遺物に祭祀用と思われるタガ付きの壺形土器や器台(弥生後期I)、埴塼様の砂岩製品などあり、注目されます。

万成国富線の調査は、昨年度に引き続いて、岡山市中井町の北方地藏・北方藪ノ内遺跡を実施し、おもに古代～中世の建物・井戸・溝等を多数検出しました。なかでも、中世の里境の溝や古代の頭蓋骨埋納墳(土壌の蓋に周防産の緑釉陶器碗を使用)の発見が特筆されます。

岡山家庭裁判所長官宿舎の調査は、岡山市伊福町の津島遺跡の一角を実施しました。調査対象積は約200㎡ほどでしたが、微高地部分にあたり、弥生時代中期末～古墳時代後期の竪穴住居や土壌が多数確認されました。そのうち、弥生時代後期後半のガラス溶滓や絵画土器を伴う井戸や、井筒をもつ井戸、古墳時代後期の鉄鉱石が出土する竪穴住居などが注目されます。

矢掛寄鳥線の調査は、鴨方町塚地古墳と道面遺跡を実施しました。塚地古墳は、墳丘の大半を土取り、横穴式石室の半分近くを池の堤防工事で壊されていました。しかし、石室最大幅1.8m、高さ1.7mの規模は町内最大級であり、現地保存の方向で検討されています。遺物は7世紀前半の須恵器約50個体分、馬具片などが出土しました。道面遺跡は、弥生時代後期の竪穴住居2軒と柱穴等が検出されました。

京橋共同溝の調査は、岡山市東中央町の天瀬遺跡を実施し、弥生時代後期中葉の粘土採掘土壌や溝、後期末の水田層、江戸時代の井戸(石組み・桶)5基・溝数条・建物の一部・柱穴列(塀?)・岡山城外堀の一部等が検出され、多数の陶磁器や80枚を越える銭(寛永通寶)が出土しました。(柳瀬昭彦)

## 話題の出土品

### か も まどころ せんぶつ 加茂政所遺跡の埴仏

仏像と言えば、木彫りや鋳物、石仏が思い浮かぶでしょうが、かつて粘土を焼いたものが流行した時代がありました。それは埴仏と呼ばれ、あるものは寺の内壁の装飾品、あるものは礼拝像として7世紀後半を中心に各地で使用されました。紹介する埴仏は礼拝像で、火頭形三尊埴仏と言い、国内12例目、県内では久米町久米廃寺につき2例目という珍しいものです。

この埴仏は、岡山市の西部、加茂政所遺跡から出土しました。ここでは7世紀以後の瓦が見られ、平安時代には確実に寺があり、それが壊された時に埴仏は捨てられたようです。

図を復元すると約10×7cm程度、上部はろうそくの炎のような形で、天蓋の下に中尊が座り、その左右には合掌する脇侍が蓮華上に立っています。型を使って作るもので、厚さ1.2cmのタイル状にな

り、表面に漆が残ることから、もとは金箔が貼られ、光り輝いていたことでしょう。

これと同じ火頭形三尊埴仏はもともと唐で製作されたと思われ、三尊と言う図案は敦煌莫高窟壁画に似たものも多くあります。1片の埴仏ですが、それからは7世紀の寺の様子や当時盛んであった遣唐使をはじめとする国際交流の一端が見えてくるかも知れません。  
(柴田英樹)



埴仏片と復元図

## 普及啓発事業から

### 1. 県内遺跡分布調査

文化財センターでは、今年度から五ヶ年計画で約20年ぶりに「岡山県遺跡地図」の改訂版製作に取り組んでいます。「岡山県遺跡地図」は、岡山県における埋蔵文化財の保護・保存のための基礎資料として作成し、その周知徹底をはかることを目的としています。

実施計画は、平成10～13年度に県内市町村を郡・市単位で12ブロックに分け、年間3ブロックを目標に調査を実施する予定です。最終年度の平成14年度には、補足調査の後、遺跡の一覧表とその位置を書き記した地図を収録した新たな「岡山県遺跡地図」を刊行する予定にしています。この新たな「岡山県遺跡地図」は、刊行しだい各関係機関に配布する計画です。

今年度は、津山市・真庭郡・久米郡・御津郡・赤磐郡を調査しました。調査の結果、新たに古墳や集落などの遺跡が数多く発見されました。

(中野雅美)

### 2. 最近刊行された報告書

本年度も、以下の報告書が刊行されました。

- 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告135 『阿知境遺跡・石塔鼻散布地ほか・池田散布地ほか』
- 同136 『旦山遺跡・惣台遺跡・野辺張遺跡・先旦山遺跡・旦山古墳群・奥田古墳・水神ヶ峯遺跡』
- 同137 『津島遺跡1』
- 同138 『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡』
- 同139 『原尾島遺跡（藤原光町3丁目地区）』
- 同140 『田益田中（笹ヶ瀬川調節池）遺跡』
- 同141 『田益田中（国立岡山病院）遺跡』
- 同142 『津寺三本木遺跡・津寺一軒屋遺跡』
- 同143 『立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂政所遺跡2・津寺遺跡6』
- 同144 『大成山たたら遺跡群』
- 同145 『津島遺跡』
- 同146 『小松遺跡ほか』
- 岡山県内遺跡確認調査報告書1 『下湯原B遺跡・山形福田遺跡・津島遺跡・福見口遺跡』

# 岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧(平成10年度)

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 津島遺跡(第1次)	岡山市いずみ町	国体主会場建設	確認	弥生~古墳の集落、弥生水田	4.22 ~ 6.9	230㎡
2 津島遺跡(第2次)	岡山市いずみ町	国体主会場建設	確認	弥生~古墳の集落、弥生水田	12.1 ~ 3.31	575㎡
3 津島遺跡(確認)	岡山市いずみ町	国家公務員宿舎建設	確認	弥生~中世集落	10.9 ~ 10.16	36㎡
④ 今岡庵寺	英田郡大原町今岡	大原町今岡地区園場整備	確認	古代寺院	4.20 ~ 5.20	160㎡
5 金井戸・見延遺跡	総社市井手	国道429号改良	全面	弥生~中世集落	6.9 ~ 8.7	220㎡
6 下湯原B遺跡	真庭郡湯原町下湯原	国道313号改良	確認	古代集落	7.1 ~ 7.15	100㎡
7 山形福田遺跡	勝田郡勝北町山形福田	一般県道堀坂勝北線整備	確認	弥生集落	7.23 ~ 8.6	43㎡
8 小松遺跡ほか	上房郡北房町上水田	県営担い手育成基盤整備	確認	縄文~古墳集落、水田跡	10.8 ~ 12.2	340㎡
⑨ 石ヶ坪遺跡	勝田郡勝田町真加部	勝田町屋内ゲートボール場建設	全面	縄文集落	10.12 ~ 11.18	500㎡
10 福見口遺跡	苫田郡奥津町奥津川西	主要地方道加茂奥津線改良	確認	近世製鉄関連	10.28 ~ 11.12	244㎡
11 岸本城跡	阿哲郡哲西町大竹	中国自動車道災害復旧	全面	中世城郭	11.10 ~ 11.13	100㎡
⑫ 北山野神古墳	英田郡美作町北山宇野神	美作町特別養護老人ホーム建設	全面	古墳	11.10 ~ 12.17	540㎡
13 水口遺跡	赤磐郡熊山町奥吉原水口	広域営農団地農道整備	確認	弥生~近世集落	1.7 ~ 1.22	60㎡
14 前内池墳墓群ほか	赤磐郡熊山町可真下・稗田	美作岡山道路建設	全面	弥生墳墓・集落	4.1 ~ 8.31	6,993㎡
15 上東遺跡	倉敷市上東	主要地方道箕島高松線改良	全面	弥生~古墳集落	4.1 ~ 3.31	5,970㎡
16 岡東高塚古墳群ほか	勝田郡勝央町岡ほか	ふるさと農道緊急整備	確認	弥生集落・古墳・火葬墓・中世集落	9.1 ~ 10.29	767㎡
17 来光寺跡ほか	赤磐郡吉井町光木	美作岡山道路建設	全面	中~近世寺院・集落	9.1 ~ 3.31	5,799㎡
18 三須・畠田遺跡	総社市三須	国道429号改良	全面	弥生~中世集落	11.1 ~ 1.31	410㎡
19 田井たれをず遺跡	勝田郡勝央町田井	ふるさと農道緊急整備	全面	弥生集落	2.1 ~ 3.31	834㎡
20 大畑遺跡	熊山町岡・佐古	美作岡山道路建設	全面	弥生集落	2.11 ~ 3.31	600㎡
21 百間川米田遺跡	岡山市米田	旭川放水路(百間川)改修	全面	古代~中世護岸・中世橋脚	4.1 ~ 10.31	1,530㎡
22 北方葦ノ内遺跡ほか	岡山市中井町	都市計画道路万成・国富線建設	全面	中~近世集落	4.1 ~ 7.31	1,245㎡
23 比丘尼ヶ城跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	中世城郭・炭窯	4.6 ~ 5.25	860㎡
24 久田原遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文~中世集落・製鉄	4.6 ~ 3.31	20,740㎡
25 津島遺跡	岡山市伊福町	岡山家庭裁判所長官宿舎建て替え	全面	弥生~中世集落	7.30 ~ 9.30	200㎡
26 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	旭川放水路(百間川)改修	全面	弥生~中世集落	10.15 ~ 3.31	1,050㎡
27 塚地古墳・道面遺跡	浅口郡鴨方町地頭上	主要地方道矢掛寄島線改良	全面	古墳・弥生集落	11.1 ~ 1.31	540㎡
28 天瀬遺跡	岡山市東中央町地内外	京橋共同溝建設	全面	弥生・中~近世集落・弥生水田	11.1 ~ 3.31	1,600㎡

○数字は市町村指導の発掘調査(調査主体は以下のとおり)

④大原町教育委員会、⑨勝田町教育委員会、⑫美作町教育委員会



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211

FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai.htm>

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より  
神道山行終点下車徒歩5分